

とコソボを含む2つの現場事務所を持つ。REC ブルガリア事務所は法人として登録されている。

主たる業務は、NGOや地域当局への無償援助プロジェクトの推進、都市環境プログラム、廃棄物、排水処理などのプロジェクトの訓練と推進、情報・住民参加・環境問題の正当化を図った Aarhus 条約を実現するための手続きの推進などであり、さらに EU 加盟に伴う規制との調和、持続的発展、開発プロジェクトについて各種 NGO を支援するための一般的な情報の提供などを行っている。

REC ブルガリア事務所は非政府組織であるので政策的なプレゼンテーションを行う事務所は有していない。

3.5 公式レセプション

日 時：2003年7月8日 19:00～21:20

場 所：ホテル・ケンピンスキー

7月8日19時からソフィア市内のケンピンスキー・ホテルにおいて日本環境衛生施設工業会主催のカクテル形式の公式レセプションを開催した。

藤村団長の挨拶につづきブルガリア側を代表して前駐日ブルガリア大使 Mr. Peter Bashikov (バ

シコフ)氏が答礼の挨拶をし、駐ブルガリア日本国大使館特命全権大使 市橋 康吉閣下の乾杯で宴を開始した。

レセプションでは日本の「鯨コーナー」に人気が集まり、あっという間に売り切れになったが、21時30分過ぎにめでたくお開きになった。

招待客はブルガリア国営テレビのスタッフを含め約40名、主な出席者は次のとおりである。

[環境・水省]

産業・有害廃棄物部長 Mr. Siyka Terzieva

同部上席専門官 Mr. Stefan N. Stefanov

欧州統合部上席専門官 Ms. Svetlana Zhekova

国際協力部専門官 Miss Detelina Peicheva

同部専門官 Ms. Emilyya Kreva

[経済省]

アジア・アフリカ・オーストラリア部長

Ms. Krasimira Yankov

[外務省]

アジア・オーストラリア・オセアニア部専門官

Ms. Natalia Misheva

[外国投資庁]

副長官 Mr. Atanas Traykov

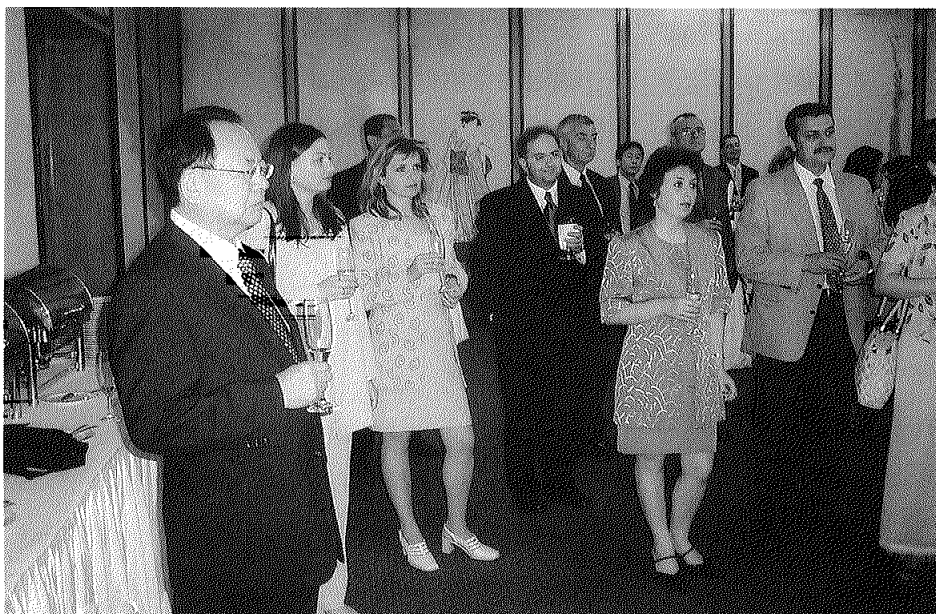


写真4 ソフィア市内
ホテル・ケンピンス
キーにてレセプション

[ブルガリアー日本経済委員会]

委員 元駐日ブルガリア大使 Mr. Peter Bashikov

[前駐日ブルガリア大使]

Mr. Peter Andnov

[REC ブルガリア事務所]

所長 Ms. Margarita Mateeva

同プロジェクトマネジャー Mr. Mihail Staynov

[駐ブルガリア日本国大使館]

特命全権大使 市橋 康吉 閣下

書記官 魚井祐一郎 氏

[三井物産(株)ソフィア事務所]

所長 別所 秀幸 氏

マネジャー Mr. Rumen Zashev

[(株)荏原製作所チューリヒ事務所]

マネジャー 浅井 健二 氏

3.6 ブルガリア共和国 経済省

日 時：2003年7月9日 10:00～11:00

場 所：ブルガリア共和国 経済省二階会議室

あらかじめ、経済省副大臣の Mr. Nikola Yankov（ヤンコフ閣下）との面談のアポイントメントがとれていたが、当日になって閣僚の人事異動があるということで省内があたふたとしており、代わって対応してくれたセクター分析部長 Mr. Andrey Beshkov 氏、同部上席専門官 Mr. Nikolay Istakov 氏と今後の技術支援の方向性などについて意見交換をした。

3.7 駐ブルガリア日本国大使館

日 時：2003年7月9日 12:00～13:30

場 所：駐ブルガリア日本国大使公邸

大使公邸に市橋大使閣下を訪問し、ブルガリアにおけるインフラ整備の現状、日本からブルガリアに対する支援の状況、今後協力を必要とする分野及び協力のあり方等について懇談し、純日本式の昼食のあと空港へ移動した。

4. むすび

これまで日本環境衛生施設工業会の海外環境事情の調査は、企画運営委員会・技術委員会メンバーを中心とするもの、計10回、国際環境整備研究委員会メンバーを中心とするもの4回が実施されたが、今回は理事会メンバーを中心に、これまでは足を踏み入れたことのない東欧、ハンガリーとブルガリアに出かけることになった。

今回のツアーの日程は、土曜日発、翌週の金曜日帰国というブダペスト2泊、ソフィア2泊、パリ1泊というタイトなものではあったが、それぞれの政府の担当部門を訪問し、ハンガリーでは東欧唯一といわれる焼却プラントを見学し、ブルガリアでは環境大臣との意見の交換や日本環境衛生施設工業会主催による公式レセプションを持つことができ、また駐ブルガリア国日本大使館にもお邪魔して市橋大使閣下と親しく懇談する機会を得ることができた。

これらは、ひとえに東欧通の藤村会長以下団員各位のご協力の賜物であり、厚く感謝申し上げるとともに、バックアップ体制を敷かれた(株)荏原製作所チューリヒ事務所ほか関係者の労を多としたい。さらに本稿をまとめるにあたって、団員の松村史朗企画運営委員長には、ご多忙のところ会議の要約や資料の整理・翻訳をお願いすることになった。付記して感謝する次第である。

ハンガリー共和国は紀元前からの歴史のなかで1000年に王国が建国されており、また、ブルガリア共和国は681年に第1次王国が成立しているいずれも古い国である。ところがハンガリーは16世紀から17世紀にかけて170年余、また、ブルガリアは14世紀末から19世紀まで480年余にわたってトルコにより占領されていたという過去がある。

ハンガリーは、18世紀からハプスブルグ家の統治下になり、その間オーストリア・ハンガリー

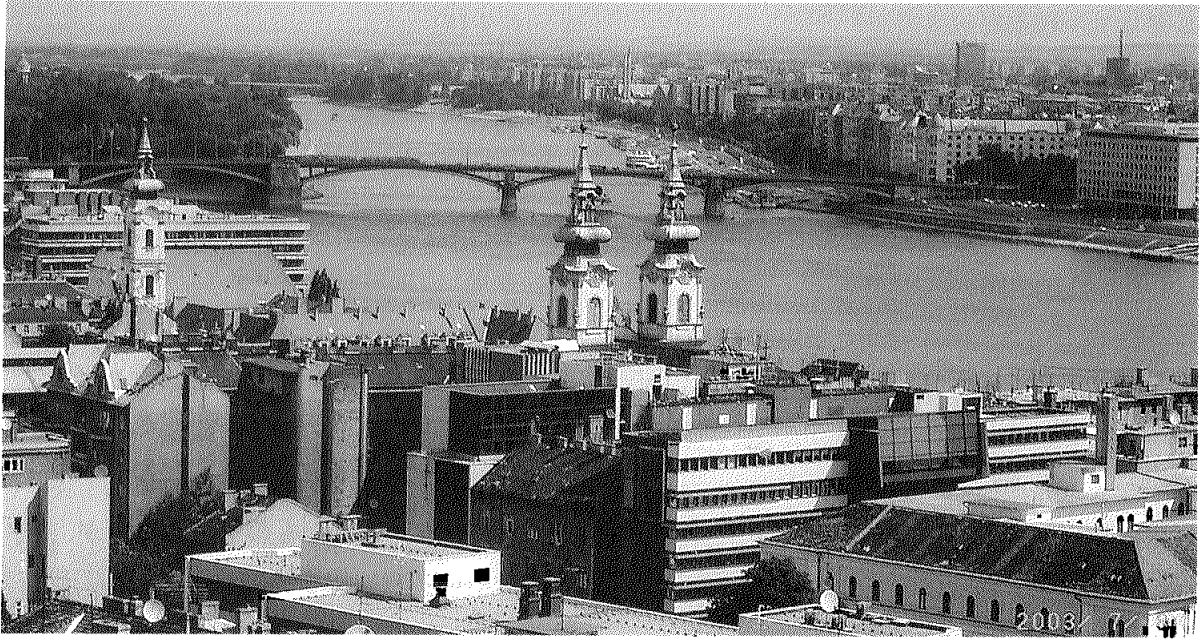


写真5 美しいドナウ川とブタペストの風景

二重帝国の時期が50年ほど続いた。第二次大戦中は一時枢軸側であったが、戦後、人民共和国になり、ハンガリー動乱をへて1989年共和国に体制変革、1999年にはNATOに加盟、2004年にはECに加盟することになっている。

いっぽうブルガリアは、トルコ占領後1979年に第3次ブルガリア王国が成立し、これに代わって1944年に成立した共産主義政権のもとに第二次大戦後、ブルガリア人民共和国を成立した。1989年共産党の独裁体制終焉後、民主憲法のもとに2004年にはNATOに加盟、2007年にはEU加盟の予定と聞く。政権は、社会党(旧共産党)→民主勢力同盟(非共産党勢力)→社会党→民主勢力同盟と頻繁に変化しており、現在は民主勢力同盟が握っている。

両国の環境施設の整備状況について2日間づつの極めて短い滞在で実感したことを簡略に述べたい。

国民一人当たりのGDPが5,000ドル未満のハンガリーでは、屋外広告で見る限り日本からのハイテク分野の投資は目覚ましいようであるが、ハプスブルグ家統治時代からの蓄積はあるもののドナ

ウ河への排水の処理については未だ改善の必要があるのではと思われた。

同じくGDPが2,000ドル未満のブルガリアについては、道路・鉄道・港湾・上下水道・廃棄物処理いずれについてもこれからの整備が必要であり、アーセノーヴァ環境・水大臣の「今回のミーティングは、ひとつの始まりに過ぎないと思っているので今後ともよろしくお願ひしたい」という会議の際の発言に集約されるように思われた次第である。